

まちかね Vol.4 ミュージアム

発行 / 2022.8.28

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒 560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



展覧会報告 第16回特別展 モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター

2022年4月28日(木)～7月30日(土)の期間、「モダン中之島コレクション “大大阪”時代の文化芸術発信センター」展を開催した。大阪・中之島は、江戸時代には蔵屋敷が並び、近代には大阪市庁舎・大阪市中央公会堂をはじめ、新聞社・図書館・ホール・ホテルが集積したシビックセンターとして発展し、戦後もフェスティバルホールや具体美術協会の活動拠点「グタイピナコテカ」が置かれるなど文化芸術の中心地として成長。さらに、今年2月には大阪中之島美術館が開館したことで、中之島は世界的にもユニークな“美術館島”としての性格を強めることになった。本学も大阪大学中之島センターを改修して、美学・美術史・演劇学・音楽学・文芸学など芸術系の拠点として「大



旧大阪市役所のまぐさなどの展示風景

阪大学中之島芸術センター（仮称）」として2023年の開設を進めている。

その動きを踏まえ本展では、大正14年(1925)東京市を抜いて日本最大、世界第6位となった「大大阪」時代を中心に、中之島が文化芸術に果たした役割を振り返った。当館所蔵品のみならず、関連資料を各機関・個人からお借りすることができ、充実した内容となった。

第1章では、江戸時代から大正の大阪の地図や、明治35年頃の中之島のパノラマ写真帖で、中之島の地理や景観を示した。第2章は、大正7年に開館した大阪市中央公会堂が使用していた食器類や、リーガロイヤルホテルの前身である新大阪ホテルに、開業当初から客室に飾ってあった安井曾太郎の油彩画「薔薇」も展示。市役所コーナーでは三代目市庁舎の市長室の建築材で、カドケウスの装飾が



朝日新聞・朝日ビルディング・朝日会館建築模型などの展示風景

施された楯（まぐさ）やスタンドグラスも設置し、朝日新聞社コーナーでは、朝日新聞社の建築図面や、建築模型、朝日開館で開催されたコンサートや演劇のパンフレットも並んだ。特に異彩を放ったのが、中之島にかかる橋の立版古（ペーパークラフト）である。制作者の津村氏は、大阪大学が開講する社会人向けプログラムの受講生で、橋を実測して水晶橋の100分の1モデルと、難波橋など5つの街灯の10分の1モデルを制作していただいた。

第3章では、中之島と大阪大学との繋がりを振り返り、さらに、当館に寄贈・寄託頂いているグタイピナコテカの作品や資料も展示した。さらに「大阪市中央公会堂可視化プロジェクト」と題して、中央公会堂の設計競技（コンペ）で、惜しくも不採用となった、武田五一、矢橋賢吉の透視図を

展示し、もしこれらの案が採用されていたら・・・との発想から現在の中之島の景観に設計図を合成した動画も制作した。

6月25日（土）には、中之島の歴史やコンペ案を深掘りする「歴史の可能性を可視化する一再現される大阪市中央公会堂コンペ案」というシンポジウムを中央公会堂で開催した。コロナの関係で人数を絞ったものの定員100名はすぐに埋まり盛況で、特別室の観覧も行った。また、7月2日・23日にも修学館セミナー室でミュージアムレクチャーを実施した。開催期間は、コロナが落ちついた時期でもあり多くの方に足をお運びいただいた。関係者の皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

（波瀬山 祥子）

展覧会のお知らせ

大阪大学総合学術博物館（MOU）創立20周年記念展

地域に生き 世界に伸びる

「MOU 収蔵品展 - 創立から MOU（もう）20年 -」

The Museum of Osaka University (MOU) Special Collection

主催 大阪大学総合学術博物館、豊中市

共催 豊中市市民ホール等指定管理者

期間 2022年10月24日～12月17日

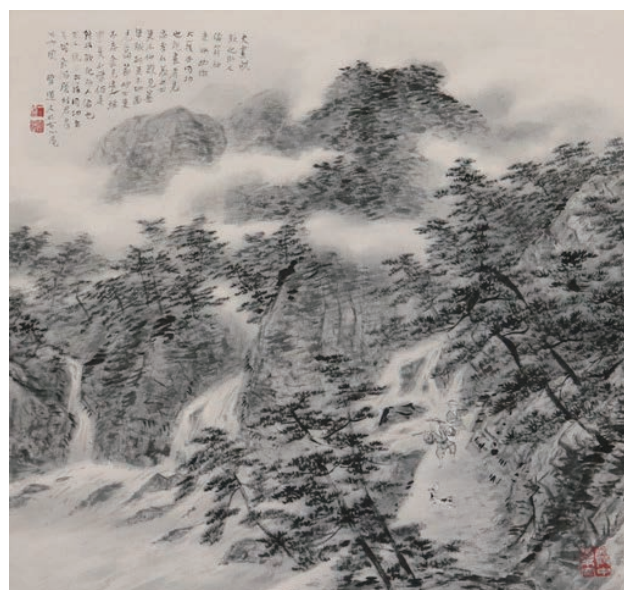
会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

「地域に生き 世界に伸びる」がモットーの大阪大学に、2002年（平成14）に創立された大阪大学総合学術博物館（The Museum of Osaka University: 略称 MOU）は、本学の精神的源流で大坂町人の学問所である懐徳堂と適塾や、大阪帝国大学（1931年創立）以来の教育研究の成果である学術資料の収集・保存・展示を使命とするとともに、地域社会とも密接に連携して、本学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介する重要拠点として活動してきました。

博物館創立から20周年を迎えて節目となる今年、これまで蓄積してきた膨大な学術資料の中から、未公開の寄贈・寄託資料を中心に公開する記念展覧会を開催いたします。展覧会場を、アート作品、収蔵品の教育への活用、教員の研究資料、卒業生の資料の4つのカテゴリーに分け、総合学術博物館の多様な活動や役割について紹介します。“知”を刺激し豊かな“感性”を養う大阪大学らしい特色ある資料の数々を、どうぞお楽しみください。展覧会開催が、未来にむけて大阪大学総合学術博物館がさらに発展する重要な機会となりますよう、ご来館をお待ちしております。



孔雀石（大阪大学総合学術博物館所蔵）



矢野橋村「白雲朝色」豊中市所蔵（大阪大学総合学術博物館寄託）

20周年記念シンポジウム のお知らせ

大阪大学総合学術博物館創立20周年記念シンポジウム

学びと遊びをつなぐもの

-21世紀における大学博物館の役割

大阪大学総合学術博物館は本年創立20周年を迎えます。人間であればようやく成人を迎えるところですが、まだまだこれからの成長過程にあると思います。社会の姿も大学のあり方も大きな転換点を迎えている今日、大学博物館はどうあるべきなのでしょう。私たちは広く社会に開かれた大学博物館を標榜してきましたが、学術資料を基に、大学の研究や教育成果を市民社会に公開することは、今後どのような意味を持ち、どのように受け取られていくので

しょうか。シンポジウムでは、広く研究教育を社会との関係の中で考察され、実践されてきた識者のお話を軸に、今一度原点に戻り、学びと遊びをつなぐ広い視野の中でこれからの姿を展望してみたいと思います。

主催 大阪大学総合学術博物館

後援 大阪大学アーカイブズ、大阪大学適塾記念センター

日時 2022年10月29日 13:00~16:45

会場 大阪大学会館講堂

講演 井上章一（国際日本文化研究センター所長）

並木誠士（京都工繊大学特定教授・同大学美術工芸資料館長）

橋本幸士（京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻教授）

徳田明仁（愛媛大学ミュージアム准教授・同大学広報室副室長、
大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

横田 洋（大阪大学総合学術博物館助教）

伊藤 謙（大阪大学総合学術博物館講師）

大阪大学中之島センター大改修計画

大阪の中心地中之島は、1931年に大阪帝国大学が創設されたいわば発祥の地です。それを記念して、この中之島に大阪大学中之島センターが設立されました。大学創立70周年を迎えた2004年のことでした。中之島センターは、その後大阪大学の社会学連携活動の拠点として大きな役割を担ってきました。そして、この度大阪大学創設90周年を機に全面的に改修をすることとなりました。

改修では、1階2階部分を共用スペースとして、大阪大学の歴史資料や研究資料に触れながら、人々が集い、ひと

ときの憩いの時間が持てるように構想されています。3階4階部分には、アートを軸にした教育や社会連携のためのスタジオや展示スペースが設置されます。5階部分は社会学共創のスペースとしての活用が期待されています。また8階と9階には会議室やラウンジ、また最上階の10階の佐治敬三メモリアルホールも全面的な改修を行い、新しく生まれ変わります。

改修後の中之島センターは2023年春のオープンの予定です。改修後には、ここ中之島で、大阪大学で育ててきた知をダイナミックに交差させ、学術、技術、文化、芸術の発信拠点となって、社会との結びつきを一層活発にしていける場所となることでしょう。

（永田 靖）



エントランスイメージ図



床下展示イメージ図

私にもできるアウトリーチ

大阪大学総合学術博物館を、大阪大学の研究者の皆様のアウトリーチの場として活用してみませんか？簡単なところ

では、サイエンスカフェ等のコーディネーターから、特別展まで、いろいろな規模のアウトリーチ等が可能です。まずは総合学術博物館までお気軽にご相談ください。

kyousou-museum-tekijuku@office.osaka-u.ac.jp

第2回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介します。

大岡 宏造（おおおか ひろぞう）
大阪大学全学教育推進機構（理学研究科兼任）教授

「阪急石橋駅から阪大坂を上ってくると、すぐに真正面に目に入ってくる建物が、大阪大学総合学術博物館である。もともとこの建物は、大阪大学附属医療技術短期大学（3年制）の講義・実習棟であった。（中略）江戸時代の懐徳堂と適塾をその前身とする大阪大学の歴史や、待兼山周辺の貴重な里山標本、理科系中心として発足した大学であるがゆえの古い研究機器などが展示されている」

私はこれまで約20年間、大阪大学に入学してきた1年生を対象に生物学の基礎教育に携わってきた。文系・理系を問わず、春夏学期に受け持ったクラスでは、第1回目講義で必ず総合学術博物館を紹介するようにしている。冒頭の文は、学生にWEBで公開している私個人の講義ノートの一部である。かつては里山であった自然に触れ、また大阪大学の建学精神を知ること、大学での学びの動機づけとして活用している。

また2019年度から始まった「学問の扉（通称：マチカネゼミ）」では、受講学生たちと総合学術博物館を見学し、「学びにおける博物館利用」の意義や価値、可能性について一緒に考えていく内容にしている。長引くコロナ



禍においても、幸いにも資料部の伊藤講師にオンライン見学のお世話をいただき、非常に感謝している。伊藤講師とは、2018年8月、中国黄土高原の調査研究で一緒にさせていただいた時からの付き合いである。

今日、科学技術に限らず、あらゆる活動は急速にグローバル化が進み、食糧や生態系などの問題が地球規模で噴出している。これらの諸問題は複雑に絡み合い、対処するための答えは決して一つではないだろう。多様な答えを引き出すヒントを与えてくれる「学びの場」が、誰もが利用できる博物館ではないかと思っている。

ホームページ新規動画紹介

より多くの方に大阪大学総合学術博物館を楽しんでいただくために「デジタル博物館」を開館しております。これまでに開催した特別展や常設展など、教員の解説付きで公開しております。是非一度ご覧ください。

新しく下記の動画を公開しております。

大阪大学総合学術博物館 第16回特別展『モダン中之島コレクション』

「中之島船上解説」

大阪大学総合学術博物館 常設展紹介

「修学館」

動画は下記URLまたはQRコードよりアクセスください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/digitalcontents/>



編集後記

博物館閉館後に実施する講義案内の立番をしていると、小学生くらいの男の子2人が閉館時間と知ってがっかりしているところに出会いました。ワニを見に来たとのことで、入り口のワニ模型を少し一緒に見学し、また明日きてね、と送り出しました。次の日に見に来てくれたら良いな、との思いと同時に、博物館は彼らの学問への興味の入り口であることを再認識しました。（辻野）

大阪大学総合学術博物館ニュースレター

まちかねミュージアム

発行日 2022年8月28日

編集発行 大阪大学総合学術博物館

グローバル情報委員会

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-20

大阪大学総合学術博物館 事務局

Tel : 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>